

忘れられない エンターテインメントの記憶

千葉商科大学サービス創造学部 学部長・教授

吉田 優治
YOSHIDA Yuji

プロフィール

専門：経営管理論・経営教育論・サービス創造論
1987年青山学院大学大学院経営学研究科博士課程修了。同年、稚内北星学園短期大学経営情報学科専任講師。1989年千葉商科大学商経学部専任講師に就任、助教授、教授を経て、2009年新設の「サービス創造学部」初代学部長に就任、現在に至る。アメリカ経営学会・経営教育部会日本担当理事、2013年8月、全国ビジネス系大学教育会議会長に就任。アメリカ経営学会よりアワード（2001～2008年）、韓国経営教育学会より学術賞（2009年）、日本マネジメント学会から国際貢献表彰（2013年）など。2000年ボストン日本人研究者交流会（Boston Japanese Researchers Forum）設立。



数年前にフロリダ州オーランドで開催されたアメリカ経営学会年次大会に参加するために経由地のニューヨークで数日間を過ごした。そこではじめてブロードウェイのミュージカルを見た。たまたま通りかかった劇場のチケット窓口で「Motown」の当日券を入手できた。デトロイトで生まれた Motown 音楽の変遷をヒット曲に合わせて歌って踊ってのミュージカルショー。1970年に大学時代を過ごした私にとって、当時大人気の Motown 音楽は青春の原点そのもの。前から2列目中央の席に座ってオーケストラピットから音楽が流れた瞬間、涙が溢れ出てきた。50年前のあの頃に戻った。青春の日々が走馬灯のように駆け巡る。隣に座った同年代の夫婦もハンカチで目頭を押さえていた。選び抜かれたプロフェッショナルたちの圧倒的な音楽とダンスが観客一人ひとりの思いと共鳴して同夜のミュージカルが成立したのだと思う。人生で最高のミュージカルだった。

今年のお正月、「千葉ジェッツ」の勝利を信じてバスケットボール天皇杯の決勝戦を代々木第一体育館でひとり観戦した。観戦中に体が震えた。試合中は涙で曇って試合が見れなかった。千葉ジェッツが圧倒的な強さで優勝した瞬間、これまでスポーツ観戦で感じなかった興奮と歓喜を覚えた。8年前に当時25歳の若者二人が球団設立の支援を求めて学部長室に来た。彼らの熱さとこれまでの厳しい経営状況を乗り越えてきた球団社長の気持ちが自分の気持ちとシンクロした。そのとき「やればできる。次は、サービス創造学部がてっぺんとるぞ」と心に誓った。

サービス創造学部は、こうしたエンターテインメント

を創造する人材を育成するため、企業と連携しながら多様な学びの場と機会を学生に提供してきた。2016年度秋学期には経済産業省に事業採択された「On Campus Real Business Learning」プログラムの一つとして、公式サポーター企業「イオンエンターテイメント株式会社」と特別講義「映画興行サービス論」を立ち上げた。受講生は映画館で映画を見て、総支配人から映画興行の実践について学んだ。また多くの映画関係者が来校し、映画興行に関する講義をしていただいた。わが国初の映画興行に関する教育プログラムとなった。今年度はさらにバージョンアップして学生が瑞穂会館をリノベーションしてつくった「The University Hub」5階にある「University Theater」で映画上映する企画も検討されている。また学食ランキング1位になった「The University DINING」や昨秋オープンした「DANCE & LIVE Studio」でのエンターテインメントの企画プロデュースの機会も近く学生に提供される予定である。

公式サポーター企業の「千葉ロッテマリーンズ」、「千葉ジェッツ」、「JEF UNITED 千葉」と連携した学部オフィシャルプロジェクトにも多くの学生が参加し、球団職員とともにスポーツエンターテインメントを模索し続けている。

社会の変化、技術の変化、意識の変化に伴い、エンターテインメントのあり方が模索され続けている。エンターテインメントの楽しさとそのビジネスの難しさをサービス創造学部でこれからも研究教育し続けたい。